

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○				アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング（装飾）など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・通年	120	4		○			○		○		
○				アイテム演習 ジュエリー	・ ジュエリー・アクセサリー商品の基礎知識の習得。 ・ ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗（高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗）における市場調査による商品研究。	1・通年	120	4		○			○		○		
○				アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技術の習得。作品を製作する中で、基礎的な製作技術を習得する。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きブレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナー付きポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショップリサーチレポート等。	1・通年	120	4		○			○		○		
○				アイテム演習 シューズ	・ 基本デザイン（モカシン・パンプス）の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・ 用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・ 履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ	1・通年	120	4		○			○		○		
○				自由研究 I	・ 各課題や個人の自由実習及び、補習を行う。 ・ ブランド研究（帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究） ・ 各種コンテストの参加 ・ 美術館、博物館等の見学	1・通年	60	2				○	○	○	○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				ハンディクラフト I	企業との連携により各種のクラフトテクニックを、エンブロイダリーと布の加工に大別し、広く基礎的なテクニックを中心に習得していく。特に、バッグ・シューズ・帽子・アクセサリーなどのグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習する。併せて、学習したテクニックが使用されている実際の商品などの資料を集めて、ブックの形式で完成させることにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。	1・通年	60	2		○	○			○	○	
○				造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2		○		○			○	
○				色彩論・演習	色彩の基礎的な知識を習得し、ファッションデザインにおける表現力、分析力を養う事を目標とする。テキストの内容に沿った講義や実習プリントの学習を通して、色彩の基本的な知識、配色の基礎などを理解し、ファッションの現場で活用できる能力を身につける。	1・通年	60	2	○	△		○		○		
○				デッサン I	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。	1・通年	60	2		○	○				○	
○				ファッションデザイン画	ファッションデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。	1・通年	60	2		○	○			○		
○				グラフィックワーク I	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1		○	○			○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。 服飾造形の基礎、シャツ・ブラウスの基礎知識、縫製	1・前期	60	2			○	○		○		
○				服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○				素材論	アパレルおよびファッショングッズに使用される素材について、繊維・糸・布・仕上げ加工などを主に学び、これらの知識を他教科やさらに将来の職業に生かせるよう基礎知識を充実させてゆくことを目的とする。	1・前期	30	1	○			○			○	
○				ファッションビジネス概論	ファッションビジネスに必要とされるファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャンダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○		
○				クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・通年	30	1		○		○			○	
○				キャリア開発Ⅰ	新入生の時点から就職を意識させ、次年度から始まる就職活動に向けた準備を整える。 将来の進路を決定する大事な学生生活をどのように過ごすかの意識付けとする。	1・通年	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				特別講義Ⅰ	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・通年	30	1	○			○			○	
○				校外研修Ⅰ	・北竜湖コミュニケーションキャンプ 2泊3日の団体生活により、学生同士や教師との親睦を深める。 ・集団行動の中で相互理解を深め協調性を学ぶことで信頼関係を築く。	1・前期	30	1			○		○	○		
学年合計				19科目					1140単位時間(38単位)							

授業科目等の概要

(ファッショント工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				帽子 デザイン I	基礎で学んだ技法を深く理解し、高度な技術を学ぶ。各種材料の特性を活かしたデザインと表現方法について研究し、完成度の高い作品制作を目指す。平面パターンの展開によるハンティングと立体裁断による布帛の応用作品。フォーマルに適した装飾とコットン芯による土台芯の制作。夏物帽体でのフォルムの作り方。ホースヘアーブレードの使い方を研究し、修了制作に相応しい作品を制作する。	2・通年	60	2			○	○		○		
○				帽子 パターン I		2・通年	60	2			○	○		○		
○				帽子 制作実技 I A		2・前期	60	2			○	○		○		
○				帽子 制作実技 I B		2・後期	90	3			○	○		○		
○				ジュエリーデザイン I	・ ジュエリー・アクセサリーに関する情報と一般知識の習得 ・ ジュエリーにおける金属加工のための技法、及び技術の習得。 ・ アクセサリー制作における各種素材の研究と加工技術の習得。 ・ ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗における市場調査によるショップ研究、定点観測と商品計画。	2・通年	60	2			○	○		○		
○				ジュエリー制作実技 I A		2・前期	90	3			○	○		○		
○				ジュエリー制作実技 I B		2・後期	120	4			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッショント工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択	○	自由研究Ⅱ	帽子やジュエリーに関わるテーマを学生各自が設定し、研究、制作などを行い、自主的に研究創作意欲を高めることを目標とする。各種コンテストへの参加(YKKファスニングアワードや、台東ザッカデザインコンペティション、学内コンテストなど)やコラボレーション、個人テーマによる研究、作品制作など。	2・通年	60	2	○	○	○		
○		アートフラワー	○		各課題ごとに各種素材の把握と扱い、用具の自由な使い方などを広く盛り込み、アートフラワーの基本的な知識と技法を実習により習得。専門分野に活用できるレベルを目指す。簡単なことながらも工夫次第で様々なモノ作りの場に於いて展開していくような応用力、マニュアルもさることながら、発想豊かさを大切に楽しんで、又心を動かしつつ創作できる力がついていくよう指導する。	2・前期	30	1	○	○		○	
○		ハンディクラフトⅡ	○		ハンディクラフトⅠで学習したテクニックの応用。エンブロイダリーと布の加工の他に、レースのテクニックも含め、より高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。また、種々のマテリアルも発展として使用していく。帽子・ジュエリーへの応用力など、さらにクリエイティブな力を養うことを目標とする。	2・通年	60	2	○	○		○	○
○		染色演習	○		帽子・ジュエリーデザイン制作の新たな発想の手がかりとなるよう、基本的な染色の知識やプリント技法・素材の加工法などを実習をとおして習得する。	2・前期	30	1	○	○	○	○	
○		ファッショントマーケティング	○		1. ファッショントマーケティングの基本概念を学び、企画構想力を身につける。課題演習が主体のため、マーケティング理論は、特に重要な部分を抜粋する。 2. 最新のマーケティング事例とファッショントビジネス情報を解説して、業界の動向を把握し応良力を高める。	2・通年	60	2	○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッショント工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				デッサンII	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物の当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。	2・前期	30	1			○	○			○	
○				西洋服装史	西洋服装史の通史的、概論的講義。古代から現代に至る西洋を中心とした歴史の流れと服装の推移、発展を理解させる。人類が古代からファッショントどのように関わってきたかを、社会背景や美意識の変化を通して19世紀まではシルエットの変遷に重点を置き、20世紀から現代まではデザイナーの仕事に注目しながら現代ファッショントの生成を理解する。	2・後期	30	1	○			○		○		
○				グラフィックワークII	グラフィックワークIの修了者を対象として、コンピューター操作の更なるスキルアップを図る。Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着彩ができる目標とする。Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになる目標とする。	2・通年	60	2			○	○		○		
○				ファッショングッズデザイン画I	グッズフォルムの表現力を構造から視野を深め、発想やアイディアを表現するなどの確実な習得を目指す。ヘッドのデザインでは頭部(顔)と帽子構造の関係を基に、形体・バランスからデザインの探求。グッズデザインにはそれぞれのディテールデザイン、素材表現、創作デザイン、コーディネイトスタイルも重視して表現力を高める。	2・通年	60	2			○	○			○	
○				造形デザインI	ファッショント工芸専門課程の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となる。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的制作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とする。	2・通年	60	2			○	○				○

授業科目等の概要

(ファッショント工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択	キャリア開発Ⅱ（コミュニケーション）	将来を考えるテーマを通し、「(読み)・聞く・書く・話す力」を養う ・世の中に関心がもてるようになる ・人前で自分の意見を堂々と言えるようになる ・グループプレゼンテーションを通し、自分のことを表現したり、チームで協働することを経験する	2・前期	30	1		○	○			○
○			キャリア開発Ⅱ（就職対策）	育成プロセスとして、単なるやり方を伝えるだけでなく、意識させ、繰り返してできるようになるまで行う	2・後期	30	1		○	○			○
○			特別講義Ⅱ	多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。	2・通年	60	2	○			○		○
○			校外研修Ⅱ	企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的文化にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。	2・前期	30	1		○		○	○	
		○	インターンシップa	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事を確認するとともに、学校教育では授業できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上をはかる。 帽子やジュエリーの企業を中心に、1~2週間程度の期間、実務作業の補助(デザイン、製作、営業、生産管理など)や工場見学等、企業の受け入れ可能な内容を研修する。	2・後期	30	1			○		○	○
学年合計			22科目			1170単位時間(39単位)							

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
						講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	各テーマの目的に合ったデザイン発想と展開。デザインに合ったパターンの展開方法と表現技法を研究し、理解を深めてより完成度の高い作品作りを目指す。顧客設定に对してのデザイン提案や、チップ(元型)制作のためのフォルムの研究、専用ブレードミシンを使用したデザイン。他のグッズとのコーディネート提案も行う。卒業期には、卒業創作・研究と共に、個々のテーマ設定によるトータルデザインの基に創意工夫し作品制作する。	3・通年	60	2			○	○		○	
	○		3・通年	60	2			○	○		○	
	○		3・前期	180	6			○	○		○	
	○		3・後期	120	4			○	○		○	
	○	個性を生かしたデザイン展開をもとに、技法の拡大と精度をあげることに精進し、作品の完成度の高さを追及するとともに、様々なアイテムに挑戦し、ジュエリーの知識を深め社会・企業のニーズに対応可能な人材を育成する。また伝統的金工技法を元にした表現を習得し、自己表現の舞台であるジュエリーアート展・日本クラフト展・日本現代工芸美術展など様々な公募展にも挑戦し未来を見据えた時代に即応したジュエリー制作者を養成する。	3・通年	60	2			○	○		○	
	○		3・前期	150	5			○	○		○	
	○		3・後期	120	4			○	○		○	
	○		3・通年	90	3			○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッショント工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				コスチュームアクセサリー	創造性の追及と制作技法の研究から、オリジナルなトータルデザインと新たなアイテムの提案に取り組み、完成度を高めることを目標とする。各自の課題制作に加え、産学コラボレーション企画、各種コンテスト作品への応募や、文化祭ファッションショーの作品制作にも取り組む。卒業期には卒業研究・創作や帽子、ジュエリーと連動して卒業制作に取り組む。	3・通年	120	4			○	○		○		
○				レザーグッズ	ファッション小物を総合的に企画デザインするために、皮革各種素材の特性と製作技法を理解して、デザインに合わせた制作方法を学ぶ。 ベルトのデザインについての一般知識とパターン展開。ボディからの立体裁断。 手袋の応用デザイン。 レザー及び毛皮を使ったグッズのデザインとその制作。	3・前期	30	1			○	○		○		
○				エナメルワーク	1. 七宝技術の習得 色彩構成の学習 2. 金属加工の技法、及び技術の習得(七宝制作の胎作り)	3・前期	30	1			○	○		○		
○				グッズマーチャンダイジング	1. ファッション・マーチャンダイジング実務について指導を行い、シーズンMDの計画背景に基づいたプランニング実習を行い、企業で企画プランナー&デザイナーを目指す学生の為の教育を行う。 2. ファッションブランドのプランニング過程を実践。現実に即したブランドの意思決定と立案計画、そして具体的な商品企画を行い、プレゼンテーションを実施。個々の能力向上を目指す。	3・前期	60	2			○	○			○	
○				ジュエリーCAD I	ジュエリー・アクセサリーのデザインにおいて必須となった3D-CADでのデザインを3DCADソフト『ライノセラス』を使用し、その基本技術を習得する。	3・後期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		選択 ファッショングッズデザイン画Ⅱ	ファッショングッズを表現するうえで、機能・実用性・形状といった認識をもとに個々それぞれの特性を引き出せるよう創作デザインの考案、ならびにデザインワークの即戦力として使えるデザインの習得をする。 就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)の作成、及び企画力のデザイン展開を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
		○		選択 レンダリング	ジュエリー表現のスタイルの枠にとらわれず、発想の自由の中にリアルな素材感・新たなコラボデザインの展開など基本表現をもとに個々の特性を引き出す創作デザインの考案、ならびにデザインワークとして使えるデザインの習得をする。 就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)の作成、及び企画力のデザイン展開を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○			造形デザインⅡ	・多種類の素材を通してデザインにおける造形や色彩感覚を養う ・発表会を通してプレゼンテーション能力を養う ・作品を記録し、自分のブランドとして冊子を作り、展示方法を考えていく	3・通年	60	2			○	○			○	
	○			生活文化史	多元的に人間文化の源流を学習することで、古代から人間が大切にしてきた人類共通の文化を考える。	3・後期	30	1	○			○			○	
	○			ファブリックスカルプチャー	ジュエリー表現のスタイルの枠にとらわれず、発想の自由の中にリアルな素材感・新たなコラボデザインの展開など基本表現をもとに個々の特性を引き出す創作デザインの考案、ならびにデザインワークとして使えるデザインの習得をする。 就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)の作成、及び企画力のデザイン展開を目指す。	3・後期	60	2			○	○			○	
	○			英会話	初歩の英文法を学習している学生対象のコース。ファッション関係のトピックを中心に英語表現に慣れ、初歩の会話の運用ができるようになる事を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	○

授業科目等の概要

(ファッショント工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 平成29年度

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
						講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択	○	特別講義Ⅲ	30	1	○	△	○		○	
○	○	○	○	インターンシップb	30	1			○	○	○	
○			○	卒業研究・創作	120	4			○	○	○	
学年合計		22科目	1110単位時間(37単位)									
総合計		63科目	3420単位時間(114単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。